

西嶋 徹
contrabass, daxophone

内橋和久
guitar, daxophone

2024 10月12日(土)
開場 19:30 night live
開演 20:30
(2ステージ入替なし) (1drink=600~)
MC=3300+2drinks order

CAFE **BEULMANS**

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



西嶋 徹

1973年東京生まれ。5才よりヴァイオリン、高校よりエレキベースを始め、大学卒業後にコントラバスを始める。ジャズやアルゼンチンタンゴを軸に幅広い分野で活動。現在、Cuatrocientos、三枝伸太郎 Orquesta de la Esperanza、鬼怒無月 Quinteto、吉田篤貴 EMOstrings、などのグループに参加。これまでに、葉加瀬太郎、綾戸智恵、小野リサ、小松亮太、Jazztronik、Pablo Ziegler 等多くのアーティストのコンサートやレコーディングに参加。2014年にピアニスト林正樹との2枚目となるDUOアルバム「El retratador」をリリース。2018年、ソロアルバム「Phenomenology」をリリース。2021年、ギター藤本一馬、ピアノ栗林すみれ、ドラム福盛進也とのグループ Remboato にてアルバム「星を漕ぐもの」リリース。2024年、自己のリーダープロジェクトとして蒼波花音 (sax)、遠藤ふみ (pf)、と共にアルバム「幽けき刻」をリリース。

内橋和久

大阪府生まれ、ベルリン在住。ギタリスト、ダクソフォン奏者、コンポーザー、アレンジャー、プロデューサー。レーベル「イノセントレコード」主宰。インプロヴィゼーショントリオ/アルタードステイツ主宰。83年頃から即興を中心とした音楽に取り組み始め、国内外の様々な音楽家と共演。活動の領域は音楽だけにとどまらず、映像作品や演劇などの音楽も手掛け、中でも、劇団・維新派の舞台音楽監督を主宰、松本雄吉が亡くなるまで30年以上にわたり務めている。維新派以外にも宮本亜門、河原雅彦などの作品も手がけ、近年はチェルフィッチュの岡田利規のミュンヘン、カマーシュピールでの4作品と2021年神奈川芸術劇場、2022年ハンブルグのタリアシアター、オスロ国立劇場での作品の作曲を手がける。音楽家同士の交流、切磋琢磨を促す「場」を積極的に作り出し、95年から即興ワークショップ「ニュー・ミュージック・アクション」を神戸で開始する。その発展形の音楽祭、フェスティバル・ビヨンド・イノセンスを96年より毎年開催2007年まで続ける。これらの活動と併行して歌に積極的に取り組み、おたか静流、UA、細野晴臣、くるり、七尾旅人、青葉市子とも活動。Salyu とはデュオユニット「ウッタギッタ」を2014年に結成。即興音楽家とポップミュージシャンの交流の必要性を説く。また、2002年から2007年までNPO ビヨンド・イノセンスを立ち上げ、大阪フェスティバル・ゲート内でオルタナティブ・スペース、BRIDGEを運営したことで知られる。現在はベルリン、東京を拠点に活躍。パワーと独創性に満ちたギターのアプローチで、インプロヴィゼーション(即興)とコンポジション(楽曲)の境界を消し去っていく。親友でもあるギタリスト/ハンス・ライヒェルの発明によるダクソフォンの演奏者としても知られている。新楽器レゾナントハーブギターを2017年に考案。演奏活動を始めている。innocentrecord.com